



## ！ 材料物質科学コース

あなたの輝かしいキャリアの中で、  
第一作を作る場所

研究・論文の「第一作」をできるだけ早く、  
学生時代に生み出すことを重視しています。  
卒業論文・修士論文は、海外投稿論文(英語)と  
同等レベルの品質を目標とし、  
在学中にどんどん論文を出させたいのです。  
そして「横並びの一斉卒業」よりも、成果に応じた柔軟な  
ステップ移行(論文完成=次のステップへ)を考えています。  
大学4年間、修士2年間の修了時期まで惰性で縛られることを避け、  
対外的に成果を出した学生さんは次段階の準備へ進ませます。  
この考えは特別ではなく、自分の研究室ではジャーナルスタンダード。  
だから学生さんには、第一作を早めに作るうと言いつけています。

材料物質科学コース 准教授

田原 圭志朗

たはらけいしろう  
2008/4~2011/3(3年間)  
九州大学大学院工学部物質創成工学専攻博士後期課程  
2011/4~2011/7(半年間)  
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科博士研究員  
2011/8~2011/9(2か月)  
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科特任助教  
2011/10~2016/9(5年間)  
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科助教  
2016/10~2021/3(4年半)  
兵庫県立大学大学院物質理学研究科助教  
2021/4~2023/1(約2年)  
兵庫県立大学大学院理学研究科助教  
2023/2~  
香川大学へ



教員紹介



研究室紹介

## 今に至る先生のエピソードを 教えてください

小学1年生の夏休み自由研究。  
地元(福岡県久米市、人口は約  
20万人)の学校全ての代表作品  
が1か所に展示されました。それ  
を見たときの感動と感銘。今も忘  
れることはできません。学会のミニ  
版のようなものなのですが、あの  
とき以上の展示会や学会に出会っ  
たことがありません。複数の前提  
条件や制約がある中で工夫するこ  
と、その上でユーモアを加えるこ  
との大切さを学びました。

4年生で、校庭の木の種類や役  
割をテーマにした自由研究に挑  
戦。木の葉をたくさん収集し、模  
造紙に貼っての考察。しかし葉を  
収集すれど家に帰るまでに葉を落  
としたり、どれとどれがサンプルし  
た葉がわからなくなって泣いたり。  
今の研究で化合物を作り、各化合  
物にラベリングをしています。その  
場で記録、分類、ラベリングする大  
事に気づいたのはこのときです。

また、ガイドする人の重要性も  
気づきました。本人は頑張ろうと  
思ってもうまくできないケース  
があります。幼いときはわからな  
かったのですが、今はわかります。

指導者というか、最後までガイ  
ドする人の存在が必要なのです。(4  
年生の自由研究は父親がガイ  
ド役でした)研究へのモチベーシ  
ョンがそれほど高くない学生さん  
に、いろいろと言うのは、この経験  
からです。(学生さんからすると、こ  
の先生は滅茶苦茶たくさん言うな  
ど笑)

工夫・ユーモア・ガイドの重要性  
は42歳になった今でも、自分の中  
にあります。小さい頃から自分は研  
究者だったと思っています。

高校は理系選択(部活動は長  
距離走や駅伝の陸上部)。大学で  
はラクロス、引退まで本腰入れて  
やりました。ラクロス部を引退する  
と時間ができ、小学生の頃を思い  
出し、研究に全投入。有機合成を  
重視する研究室で、手を動かして  
実験にのめり込んでいきました。  
楽しかった時間です。その後、奈良  
先端科学技術大学院大学・兵庫  
県立大学を経て、同年代の先生か  
ら有機デバイス分野を手ほどきさ  
れ、現在も継続しています。